

【様式】

令和3年度 学校マネジメントシート

学校名 (三重県立朝明高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		「社会に貢献できる人間へ ―自分づくりの三年間―」をテーマとして、「時を守り、場を清め、礼を正す」の教育指針のもと、生徒が成長する学校
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の進路実現に向けて、目標を持って学校生活を送っている。 ・自己肯定感や自尊感情を持ち、人権尊重の意識や態度を身につけ、自分と他者の命と人権を守るための実践行動ができています。 ・「社会人基礎力」を身につけ、礼儀を重んじ、社会規範の遵守・挨拶の励行・正しい言葉遣いができています。 ・基礎学力、思考の習慣と判断力、コミュニケーション能力が身につけている。
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の基礎学力の定着及び学習意欲の向上を図るため、主体的・対話的で深い学びを目指した「授業改善」に取り組んでいる。 ・各教科や分掌において、「生き抜く力」をはぐくむため、「考える力」や「判断する力」、「表現する力」などに対する具体的な教育活動を推進している。 ・教育相談及び特別支援教育等が充実し、個に応じた指導と支援体制が整備されている。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p>生徒: 自己肯定感や自尊感情を持ち、自らの成長を実感して、進路希望が実現する。</p> <p>保護者: 安全・安心して学べる学校であり、心身ともに健全な子どもの育成が図られている。</p> <p>地域社会: 卒業までの粘り強い支援と、卒業後、社会を生き抜く力をつけている。</p> <p>進路先: 社会人基礎力をはじめとする人間力の向上に係る教育が行われている。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	<p>こ小中学校: 発達段階に応じた学びの連携と協力。</p> <p>保護者: 学ぶ力・心の力・体の力の育成と希望する進路の実現。</p> <p>地域社会: 地域経済や自治活動の中心となる人材の育成。</p> <p>卒業生: 母校に誇りを持ち、同窓生としての情報交換の場。</p>		<p>こ小中学校: 継続的・体系的なキャリア教育に係る連携。</p> <p>保護者: 社会の一構成員としての自覚確立のための連携。</p> <p>地域社会: 生徒支援及び社会人マナー向上の支援。</p> <p>卒業生: 在校生の進路実現、学校の教育環境の整備に対する情報提供や人的・経済的な支援。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> ・朝明高校は、社会に貢献できる生徒の育成に丁寧に取り組んでいる。今後も朝明高校の様々な教育活動の継続、推進を期待する。 ・広報活動の継続的、積極的推進に加えて、高校卒業後の姿や高校で学んだことが将来の夢や希望につながったことを伝えられるとよい。 ・地域に立地する高校としてまちづくりへの参画に期待する。 	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣・挨拶が身につけている生徒が増えてきている。 ・自己肯定感や自尊感情が弱く、自分の生き方や目標を考えられない生徒が多い。 ・基礎学力の定着が不十分な生徒もいる。 ・主体的・対話的で深い学びを目指して授業力の向上を図るとともに、学習の目的や狙いをより明確に提示する必要がある。 	
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・各生徒の良さを伸ばし、苦手意識を克服できるよう支援する体制が整っている。 ・生徒や保護者、地域などの意見や要望を把握し、教員同士が対話を進めながら問題を解決し、課題の実現に向けての行動を組織的に行うことができる。さらに成果をあげるために、「情報の共有」や「経験の伝承」を進めていくための場を充実させる必要がある。 ・保護者や地域と一層の連携を図るとともに、学校の様々な取組の様子や生徒の活動の様子など、朝明高校の魅力を外部に積極的に発信する必要がある。 	

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての生徒が社会で自信を持って活躍できるよう、本校が強みとする福祉教育や部活動を通じた人間づくり等の教育を一層推進し、学校の特色化・魅力化を図る。社会を生き抜く力を育み、社会で自立・共生できるようになるため、基礎的な知識や技術を身につけ、その知識や技術を実生活中で活用できるようにする。また、人権教育の充実を図り、生徒一人ひとりが命を尊び、自己肯定感や自尊感情を持つことができるよう人権尊重の意識や態度を育てる。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・教師自身が自己の教育力の向上を目指し、授業研究・公開授業・指導法の改善を積極的に行い、学校組織としての教育力を高められるよう「授業改善」の取り組みを進める。 ・規範意識の醸成、基本的生活習慣の確立を基盤とした生徒の指導・支援を徹底し、地域から信頼される学校づくりを推進する。 ・教職員が「やりがい」や「満足感」を感じながら生き生きと働くことができるよう、「はたらき方改革」の取組を推進する。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績 (①②③…)

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等 (①②③…)

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
【学習指導】	(1)各教科で、具体的な教育活動の方針を明示 ①つきたい力(目標)の明示(学期ごとに1回、年3回) (2)わかる授業の徹底、教員の授業力の向上のために、授業公開を行い教員自身の「気づき」を促す ①授業見学週間の実施と振り返り研修会の開催 ②「授業改善推進プロジェクト」を設置し、授業改善や学力向上に向けての具体的取組を推進 (3)安心して学べるクラス作り ①学年毎に情報交換会・分析会・研修会等を実施	(1)①シラバスに明示し、毎時間の授業でも目標やめあてを板書等で明示している。 (2)①10月に授業見学週間を実施 ②国数英各1名のメンバーで設置した。活動内容は、ICT活用、観点別評価研修、授業見学週間の企画、基礎力診断テスト活用。 (3)①年度初めに情報共有会、考査期間に情報交換会を実施した。	※
【規範意識】	(1)生活規範、授業規律の確立、服装マナー・授業マナー・ベル席・交通マナーの徹底 ①生徒アンケート(達成度 97%以上) (2)基本的生活習慣の確立 ①遅刻・早退・欠席数の減少(昨年度比 10%以上減) (3)環境美化への意識向上 ①生徒アンケート(達成度 85%以上)	(1)①服装: 90.5%、授業・ベル席: 94.7%、交通マナー: 91.7% ・学年集会での講話や職員室等への入退室時の指導等を徹底した。 ・自転車のルール・マナーを守れない生徒がいる(無灯火・並列運転等)。 (2)①遅刻・欠席がまだまだ多い (3)①83.6%、掃除はよく出来ている。	
【人権教育】	(1)命の大切さを理解したうえで、自分の人権や他者の人権を守り、人を思いやることのできる生徒を育てる ①人権意識を高める活動の実施 (2)教員が願いや思いを伝える場面を増やす ①人権講演会(年間1回以上) ②人権LHR(各学期1回以上)の開催	(1)①いじめ防止週間等に生徒会、運動部生徒等による朝の挨拶活動を実施した。 (2)①文化祭で人権講演会、12月にいのちの講話を実施した。 ②各学期に人権LHRを実施した。	◎ ※
【キャリア教育】	(1)社会で自立し、他と共生することができるように、社会で生きていくための力を育む ①卒業後の生き方に対する指導を日常的に行なう ②3年生では面接練習を中心に、個人のスキルがあがるよう、必要に応じて面談を行なう ③卒業生の進路先と連携をとり、卒業後の支援体制を整える	(1)【1学年】朝読書の習慣確立、メモの習慣づけ、SHRでの日直スピーチ、進路講話【2学年】月1回のキャリアパスポート、定期考査の目標振り返りシート、職業適性検査、インターンシップと事前事後指導【3学年】進路LHR、全教職員による面接指導	

	(2)自分の将来に価値を見出し、目標を持たせるとともに、課題に対し考え、行動できるようにする ①キャリア教育にかかわる行事の実施(年間10回以上)	【進路指導部】学年と連携し進路行事を実施、一般就労決定率は97%。 (2)①進路LHR、進路講話、職業適性検査、職業人インタビュー、ようこそ先輩、体験型ガイダンス、分野別ガイダンス、合同進路ガイダンス、インターンシップ、マナー講座、スーツ着こなし講座等	※
【保健管理】	(1)自らの健康のために適切な行動をとれる力を養う ①歯と口腔の健康づくりの充実、啓発活動の実施 ①要治療者の受診率25%以上(昨年度受診率15%)	(1)①1学期末保護者会で全保護者に検診結果を配付、保健だよりでの啓発記事と受診勧奨に取り組んだ。 ①8%(10月)新型コロナウイルスによる医療機関受診控えの傾向が強い	
改善課題			
<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻の多い生徒や提出物を出せない生徒への指導 ・自転車のルール・マナーの指導の徹底 ・基礎学力の向上と「学びの基礎診断」ツールの活用 ・「特別な支援を要する生徒」や「日本語指導が必要な生徒」への指導と進路実現 ・生徒がお互いに尊重し、注意や助言をし合えるような人間関係の構築 			

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
【組織運営】	(1)学年・分掌間での情報共有の強化 ①主任会の開催による定期的な情報共有 ②学年・分掌の情報交換会等の開催 (2)教員の目的意識の共有化 ①オンサイトミーティングの実施(年1回以上)	(1)①毎週月曜に主任会を開催 ②定期考査時等に情報交換会を実施 (2)①オンサイトミーティング実施(4月)、AKT(朝明改善チーム)研修会(2月)	◎
【資質向上】	(1)教員の資質向上、学びの機会を増やすため、校内研修の改善・充実に努め、校外研修への参加を推奨する ①校内研修参加率80%以上	(1)校内研修(コンプライアンス、ICT活用、観点別評価、特別な支援が必要な生徒への指導、スクールポリシー等) ①職員会議後の研修の参加率は90%以上だが、単体での研修は参加率が低い。	
【キャリア教育】	(1)学校の取組としてのキャリア教育の充実 ①生徒の自尊感情や自信を育む教育活動や行事の実施 ②キャリア教育プログラムの見直し・改善	(1)①生徒会主体の行事(体育祭・文化祭・壮行会等)、校則に関する意見交換会(生徒会・有志生徒)、国体ボランティアの公募(生徒会)、高校生活入門講座の運営補助、いのちの講話 ②1学期に見直し・改善を実施	
【地域社会との連携】	(1)朝明高校の良いところや生徒の様子、卒業後の姿を伝える取組の推進、広報活動の強化 ①体験入学の実施(複数回) ②マスコミやHP等を通じた情報発信の推進(月3回以上) (2)地域行事等への積極的な参画 ①地域行事等への生徒・職員の参画(年5回以上)	(1)①10月に3回開催 ②HP情報発信(月平均3回以上)、マスコミ等への積極的な情報提供 (2)①オンラインで高齢者施設と交流・焼き芋交流会(ふくし科)。コロナの影響で地域行事はほぼ中止。	

【教職員の働きやすい環境づくり】	【教職員の働きやすい環境づくり】 (1)総勤務時間の縮減に向けた取組 ① 時間外労働時間:月平均 10.1 時間以下(前年比 5%削減) ② 月 45 時間超の時間外労働者の延べ人数: 0 人 ③ 年 360 時間超の時間外労働者の人数: 0 人 ④ 休暇取得日数: 16 日/年(年 1 日増) ⑤ 定時退校日: 月 1 日設定・定時退校実施率 85%以上 ⑥ 会議時間の短縮: 60 分以内の放課後会議の割合 80%以上 ⑦ 部活動休養日: 週 1 日以上 (2)信頼される学校づくり ① 学校信頼向上委員会設置、「信頼される学校であるための行動計画」の見直し ② コンプライアンス研修の開催: 年 3 回以上	(1)1 月末現在 ① 9.7H ② 23 人 ③ 3 人 ④ 12.9 日 ⑤ 98.9% ⑥ 94.4% ⑦ 100% (2) ① 信頼向上委員会を設置・開催し(1 学期 3 回、2 学期 2 回、3 学期 1 回開催)、「行動計画」の見直しやコンプライアンス研修の検討を行った。 ② 7 月、11 月に開催した	※
改善課題			
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が活躍できる場のさらなる創出 ・コロナ後を見据えた地域連携や交流活動の再構築 ・学校課題に即した研修の活性化と職員の負担の少ない研修の実施 ・働き方改革のいっそうの推進 			

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の向上に向けての取組を推進し、生徒の挨拶や身だしなみなども気持ちよく、朝明高校の評価は向上してきている。一方で、自転車通学や駅周辺でのマナーや行動については朝明高校全体の評価にもつながるため、タイムリーな指導に継続的に取り組んでいただきたい。今後も朝明高校のめざす「社会に貢献できる人」の育成に向けての継続的な取組に期待する。 ・A K Tによる中学生へのメッセージなどの広報活動では、朝明高校に進学した先輩、中学校では目立たなかった子どもの活躍が紹介され、とてもよいモデルとなっている。生き生きと活躍する生徒の育成に向けて丁寧な指導していただいている朝明高校の教育活動を今後も継続していただきたい。 ・コロナ禍の中で交流・連携の活動がなかなかできていない現状であるが、地域の高校として中学校はもちろん、小学校と高校の連携や交流にも取り組めるとよい。また、地域の事業所等との連携もさらに進めていけるとよい。福祉教育をはじめとする朝明高校の強みを活かして、各校園と連携を図りながら、地域に根差した特色ある学校づくりの推進を期待する。 ・コロナ禍によりオンライン授業やICTの活用などが進んできているが、一方で休校中や自宅待機中の子どもたちのストレスや運動不足が懸念される。生徒への丁寧なケアやフォローに取り組んでいただきたい。 ・通学時の気持ちのよい挨拶など地域でも評価されている。今後も地域のまちづくりへの参画など、地域の学校としての存在感を高めていただくことを期待する。
----------------------------	---

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・学習へ向かう意欲や規範意識の向上に向けた教育活動や生徒指導を推進する。 ・授業改善推進プロジェクト、ICT活用委員会等の活動を促進し、基礎学力の向上やICT活用の取組をすすめる。 ・「特別な支援を要する生徒」や「日本語指導が必要な生徒」への指導と進路実現に向けて、学校全体として取り組む体制づくりをすすめる。
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自信や自己肯定感の向上につながる教育活動や学校行事を強化する。 ・コロナ後を見据えた地域連携や交流活動の再構築に取り組む。 ・オンラインやICT活用も含めた校内研修の活性化、校外研修への参加を促進する。

